

巻頭言
Greeting

×

三浦 譲

Yuzuru Miura

聖書神学舎 教師

(横浜山手キリスト教会牧師)

Profile

1961年徳島県生まれ。聖書神学舎卒業後、徳島県鳴門で12年間牧会。2006年から日本長老教会横浜山手キリスト教会牧師。2014年から聖書神学舎教師(新約学)。



「キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから」ピレモンへの手紙 1:1

他の幾つかのパウロ書簡同様、ピレモンへの手紙でも、パウロと共にテモテが手紙の共同発信人です。パウロがローマの獄の中にいた時、パウロと共にいたのはテモテだけではありませんが、テモテは晩年のパウロを慰める存在であったと思います。

パウロとテモテの出会いは、使徒の働き 16 章にさかのぼります。テモテはリステラの町出身です。パウロがテモテをこれからの伝道旅行に連れて行きたかったという時に、パウロはテモテに割礼を受けさせます。その前のエルサレム会議において「異邦人クリスチャンに割礼は必要なし」と割礼問題が片付いていたはずなのに、パウロはテモテに割礼を受けさせます。その神学的問題に決着を見、割礼はキリスト者が受けても受けなくてもよい中立的なものであることを確認すると、パウロは愛における実践力を働かせます。テモテはここで、ユダヤ人たちのためにさえも「へりくだるスピリット」をパウロから学ぶこととなります。

テモテがパウロから学んだもう一つのスピリットは、「キリストのために苦しみをもちとわぬ」ということでした。それは、テモテがリステラの町出身であったということとも関係します。パウロはかつて、ピシディアのアンティオキアから、イコニオンを経てリステラにやって来たことがありました。ピシディアのアンティオキアでは、最終的にユダヤ人たちからの反対に遭います(使徒 13:45-50)。次のイコニオンにおいては、パウロを石打ちにするという企てが起きます(同 14:4-5)。それで、パウロはリステラにやって来ます。これがテモテ出身の町でありました。しかしなんと、ここではパウロは本当に石打ちにされてしまいます(同 14:19)。

けれどもパウロは、再び起き上がり、そのリステラの町に入って行きます。そればかりかデルベに向かった後、パウロはなんと、これまでユダヤ人の反対に遭ってきたリステラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返して行きます(同 14:20-21)。そして「弟子たちの心を強め、信仰にしっかりとどまるように勧めて、『私たちは、神の国に入るために、多くの苦しみを経なければならない』と語った」(同 14:22)のでした。

以上、テモテはパウロから少なくとも上記の二つのスピリットを受け継いで、その後もパウロについて行きます。そしてパウロの晩年、彼が獄の中にいる時にも、テモテはパウロを離れなかったということになります。

やがてパウロは伝道の最前線から消えて行くわけですが、しかしキリストの福音はこのようにして先代の者たちが持っていたスピリットと共に次の世代に伝えられていったわけでした。昔、聖書神学舎における恩師が、よく「霊の流れということ」を口にされていた」と聞きます。私たちの学舎においても、先代の先生方が持っていたスピリットというものがあるでしょう。そのスピリットがどういうものであったのかを確認して、聖書の語る福音が次世代へと伝えられていく時に、そのスピリットも共に受け継がれていくことの大切さを感じています。

No.196 Topics

- p03 新入生
- p04-05 2023 年度卒業生
- p06 卒業生を迎える教会の声
新入生を送り出す教会の声

召して、遣わしてくださる主

赤坂 泉
Izumi Akasaka
聖書神学舎 校長

ここに私がおります。私を遣わしてください。
イザヤ書 6 章 8b 節

学舎の春

卒業式で 3 名を送り出しました。本紙掲載の証しをご覧ください、主への感謝を共にしてください。その機会に、聖書学研究所で Th.M 相当の論文審査を通った伊藤暢人師にディプロマを授与しました。これも幸いな機会でした。

入学式には、前号発行後に 1 名が加えられて、5 名の新入生を迎えました。21 名の研修生が今年度の学舎での学びと訓練を受け始めています。

聖書学研究所公開研究会 (4/11)、4 月 22 日から始まった「教会音楽講座」、6 月 29 日の聖書神学舎デイに向けた備え、夏の諸準備など、様々な動きのなかで主の恵みを数えています。

聖書神学舎モノグラフ

聖書神学舎モノグラフの第 1 号を発行しました。昨年の夏期研修講座の講義録です。ウェブサイト公開しているほか、限定部数で印刷物としても刊行しました。仲間の神学校等に贈呈したほか、学舎でお分けすることもできます。無料で公開し、頒布していますが、ぜひこのような働きも覚えて、献金もよろしくをお願いします。

救済論に注目した今回号に続き、次号は終末論になるでしょうか。講義録の他にも、みことばの学びのために適宜に発行を重ねてまいります。

夏

夏期研修講座と教会音楽夏期講習会については既報のとおりです。牧師・教師や教会音楽奉仕者たちが、この時ならでの学びと研鑽にあず

かることができるように、諸教会の祈りと協力をお願いします。

夏期伝道実習では、千葉県佐倉市と岩手県大船渡市と山形県酒田市の 3 つの教会に受け入れていただきます。各チームが賜物を活かして教会に仕え、よき訓練をいただけることを期待しています。

また、夏の間には聖書神学舎のウェブサイトを更新することになります。これまで以上に充実した情報発信ができると思います。ご利用ください。

教師・講師のために

最後に教師陣について。今年度、新しく 2 名の講師が加えられていることはすでにお知らせしています。来年度も幾人かの先生がたが加わってください。世代交替に備えるほか、学びのために一時的に奉仕を離れるとか、健康上の理由で科目数を減らして行く必要などが重なっています。そうした中で新しい講師が備えられています。主に感謝し、送り出してくださる諸教会に感謝し、祈り支えてくださる皆様に感謝します。

このように教師陣が拡充する中で、学舎が大切にしてきた理念が正しく理解され、受け継がれて行くことに努めています。教師会の合宿や教師講師懇談会など、今後も回数を重ねて、主と主のことばに仕える学舎の歩みを進めてまいります。

聖書神学舎のために、また日本と世界の福音の働きのためにさらに献身者が起こされるように、皆様の禱援を引き続きよろしくをお願いします。



02 新入生 New Students

左より 平田、榎本、岩井、原口、中村

氏名	出身教会	奉仕教会
聖書神学舎本科 [2名]		
原口 謙 <small>はらくち けん</small>	日本福音自由教会協議会	福岡福音自由教会
平田 美名 <small>ひらた みな</small>	日本福音自由教会協議会	グレース宣教会
聖書神学舎聖書科 [3名]		
[聖書専攻]		
岩井 和基 <small>いらい かずき</small>	日本福音自由教会協議会	清瀬福音自由教会
中村 言葉 <small>なかむら ことば</small>	保守バプテスト同盟	盛岡聖書バプテスト教会
[教会音楽専攻]		
榎本 芽莉 <small>えもと めり</small>	活けるキリスト— <small>いちばく</small> 麦教会の群	川西キリスト教会
		八王子キリスト福音教会

まず神の国と神の義を求めなさい

榎本 芽莉

教会音楽夏期講習会に数回参加させていただき、みことばや歴史、賛美について講義を受け、最後に大合唱し、圧倒され、感動しました。しかし、参加するにつれて、もっと学びたいという気持ちが強くなっていきました。

仕事で子供たちと関わり、心寄り添う事は有意義でやりがいを感じていました。しかし、「まず神の国と神の義を求めなさい。」このみことばが心に迫ってきました。

大学のゴスペルサークルで先輩の賛美を聞き、当時未信者だった私は、自分の音楽とは別物であると、歌うなら信仰が必要であると衝撃を受けました。賛美を通して信仰に導いていただいた者として、自分のように救われる人が起こされるために尽力したいという思いがずっとありました。

神様が、時間をかけて聖書神学舎で学ぶ道を開いてくださった事に感謝し、覚えて祈り、応援してくださる方々がいる事を忘れずに、ここから踏み出していきたいと思います。この者の歩みのためにお祈りください。

ただ一つの誇り

原口 謙

私は大学院を1年中で退し、聖書神学舎に入学しました。献身の思いが与えられて、私は悩んでいました。卒業後、もしくは、数年社会経験を積んでからでは遅いのか。また、自分の性格や能力、弱さを考えると、決して簡単に踏み出せる一歩ではありませんでした。「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません。」

(ガラテヤ6:14)

私はこのみことばによって、自分の力や経験を頼りとするのではなく、ただ主の十字架だけを誇りとして生きる道へと招かれました。私は自分の内に安心材料を見つけ出そうとしていたことに気づかされました。自分で得たものはひとつもなく、主の一方的な恵みとあわれみのゆえに、救われ、生かされています。みことばに仕える者としての必要な学びも訓練も主が与えてくださって、主の偉大なご計画の内で用いてくださることを祈りつつ、一歩ずつ歩ませていただきたいです。



03 2023 年度卒業生
New Graduates
左より 竹内、田中、奥田

氏名	出身教会	奉仕先
聖書神学舎本科 [3名]		
おくだ ともこ 奥田 智子	ありがさき 松本蟻ヶ崎キリスト教会	日本福音キリスト教会連合
たけうち ゆき 竹内 雪 (旧姓:菅野)	湘南ライフタウンキリスト教会	あさみぞだい 麻溝台キリスト教会
たなか こうしろう 田中 甲子郎	玉川キリスト教会	日本バプテスト教会連合 拜島バプテスト教会

みことばに聞き従う人生

奥田 智子

主の憐れみにより、卒業まで導かれたことを感謝します。私にとって神学舎での4年間は、みことばによって生きることを確認させられた時でありました。最初は、慣れない寮生活、学びにしんどさを感じ、人にも環境にもなかなか心を開くことができませんでした。しかし、そのしんどさは、人のせいでも、環境のせいでもないことを私自身が一番わかっていました。自分の信仰の不従順から来る不安定さが原因でした。それは、みことばに聞き従うよりも自分の感情にまかせて生きるところから来ていました。神様はみことばを通して、私がみことばに聞き従わない硬い心の持ち主であり、様々な方法で神様に対して反発していることを示してくださいました。

しかし同時に、神様はみことばを通して、こんな私をひとり子と与えるほどに愛され、罪からの救いを

与え、さらにみことばに仕え、教会に仕える召しを確認させていただきました。

まことに主は憐れみ深く、決して私を見離さず、みことばによって導いてくださる真実なお方でした。神様は4年間かけて、私を生かし、成長させ、主の御用のために整えることのできるものはみことばであることを教えてくださいました。

これから、神様が遣わしてくださる麻溝台キリスト教会において、みことばに聞き、みことばに生きる者として神様と人とに仕えることを祈ります。

今まで、私のために祈り支えてくださったすべての皆様にご心から感謝をいたします。

主への賛美と感謝

ここまでの皆さんのお祈りと励ましを感謝いたします。私は、4年間かけて3年課程の学びをしました。入学当初は、4年課程を卒業するつもりでいました。しかし、学びが進んでいくうちに、ついていけない現状を前に不安と焦りを感じていきました。「このまま4年課程の学びを続けても、大切な部分を身につけられずに卒業してしまうのでは」と思いました。神様に祈りみこころを求める中で、「自分に合ったペースでじっくり学び、神学舎の肝である『聖書釈義』を身につけることに取り組みたい」と願うようになりました。

祈りの中で、「4年課程で卒業したい」という思いの裏には、「周りの人に認められたい」という見栄があったことにも気づかされました。神様は、どんな者であっても「忠実に従い続ける人」を求めておられる

ということにも気づかされ、決心することができ、先生方にご相談しました。さらに、3年目から、2人だけの学年になる予定だった同期にも同じ思いが与えられている事を知り、導きを確認することができました。そして、先生方のご理解もいただき、3年課程を4年かけてゆっくり学ばせていただく道が開かれました。それから2年後の今、卒業を控えた私は、聖書から確信を持ってみことばを語ることの喜びを知り、「福音を伝えていきたい」という思いがさらに明確にされたように感じています。

神様の素晴らしいご計画とご配慮を思い、心からの賛美と感謝で溢れています。

* 竹内姉は、菅野雪姉として卒業し、結婚しました。
もう一年、学舎の家族寮で研修生夫人として過ごしています。

わたしがあなたの神だから

研修生活の中、行き詰まりを感じる時、心細さを感じる時、私はチャペルに行きました。夜に行くことが多かったのですが、チャペルで祈る中で、主は「わたしがあなたの神だから」（イザヤ41:10）と私に教えてくださいました。主はご自身の民を守り、養い、導かれるお方です。私は主がどのようにこれからの道を導いてくださるかを楽しみにし、最善を与えてくださることをもう一度信じることにしました。そのような主は、私の3年間の研修生活を豊かなものとし、不足することなくその歩みを守ってくださいました。また多くの方々の祈りと支えを通して私を励まし、日本宣教を共に担う、かけがえのない仲間たちも与えてくださいました。

そして今、この学び舎を卒業する私を、主は新たな扉の前に導いてくださり、扉を開き、働きをするこ

とを許してくださいました。主は「心配することなく、わたしの与えた場所で、しっかりやっていきなさい。これからもわたしが守るのだから」とおっしゃってくださっている気がします。

人それぞれ、人生にはいろいろなことがあります。私の歩みも多分に漏れず、平坦なものではありませんでした。いろいろな遠回りをしたとも感じています。しかし、主はいつも私を愛し、導いてくださいました。それはこれから私がどこへ行っても同じです。主は私の神です。主のみことばに堅く立ち、福音のためだけの人生を歩んでいきたいです。

04 卒業生を迎える教会の声 From Churches Where New Graduates are Serving

牧師をお迎えできましたことを主に感謝します！

竹内 信人

Nobuhito Takeuchi

拝島バプテスト教会 2023年度代表役員

無牧であった当教会は、玉川教会の福井牧師より、同教会から研修生として遣わされている田中甲子郎兄のことを伺い、2024年1月、礼拝での説教をお願いしました。説教は、深い聖書の学びに裏打ちされたすばらしい内容でした。できることなら牧師として来ていただきたいという拝島教会の一致した願いとなりました。



しかし、現在の会堂は狭く、老朽化しており、また、教会員は少なく、しかも高齢であるという悪い条件を承知して来ていただけることは難しいであろうと思い、私達ができることは神に祈ることしかありませんでした。そのため、田中研修生から承諾のご返事がありましたときは、天にも上るような気持ちでその回答を聞きました。誠に主の尊い導きに感謝いたします。

教会では田中師が牧師に就任されたことにより、これまで以上に福音を地域に広め、教会員への信仰のフォロー、会堂の建替え、日常の教会運営等の課題に神様を中心として進んでいけることと考えています。師に満足な処遇ができない点が申し訳ありませんが、共に困難を乗り越えて行く決意です。今後ともお祈りくださるようお願いします。

05 新入生を送り出す教会の声 From the Sending Churches

事を行わせてくださる方に委ねて

与那覇 恭子

Kyoko Yonaha

グレース宣教会 牧師

主の御名を賛美します！この度、私たちの教会から平田美名姉を受け入れてくださり、感謝申し上げます。「献身者が与えられるように」と、教会で祈りが積まれてきたその中で、神様は一人の人、美名姉に召しを与えてくださいました。私たちは彼女が学生の頃から交わらせていただき、共に若者を中心とした教会で奉仕を担ってきました。そんな貴重な働き人であった彼女を送り出すことは、私たちにとってもチャレンジでありました。しかし、彼女がさらにキリストの弟子・神の器として整えられるために、皆で喜んで祈り、送り出しました。既に貴学舎での学びが始まり、また彼女にとってはじめての奉仕教会でも良き学びと訓練を受け始め、今でしかできないことを経験させていただいている様子を伺い、感謝です。

「良きリーダーを送り出すことは教会にとっても成長につながる」と聞いたことがあります。美名姉を

送り出した私たちも成長する機会として主に期待し、そして新たな献身者が生み出されるように祈っていきます。

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」

(ピリピ人への手紙 2:13)

貴学舎の研修生一人ひとりの上に主の守りと祝福を祈ります！



音楽言語で福音を語る

矢吹 綾子
Ayako Yabuki
聖書神学舎 教師

ルターの宗教改革により、音楽は、みことばの宣教のために用いられるようになりました。このプロテスタント教会音楽に大きな影響を与えたのは、1600年前後にヴェネツィアで生み出された第二作法という作曲技法です。これは、厳格な対位法による第一作法に対し、歌詞の持つ情感を表現することを優先させる自由な対位法で、バロック音楽の先駆けとなりました。ヴェネツィア楽派のG. ガブリエリのアレグロ「o gloriosa virgo」に見られる符点2分音符と16分音符の組み合わせは、第一作法では用いられませんでした。細かな動きの16分音符により、感情の高ぶりを表現する音型として、第二作法では用いられるようになりました(譜例1)。

プロテスタント教会音楽の全盛期となるバロック音楽について、礒山雅氏は、「バロック時代のドイツでは、音楽と修辞学が、姉妹のように深い関係をもつものと考えられていた。なぜならば、音楽を作曲し演奏することは、文章を書き演説することに類比し得るからである。音楽は一種の弁論にほかならない。教会音楽は一種の説教のようなもので、説教と同じように聴き手を教化し、楽しませ、感動させなくてはならない。それが当時の考え方であった。」と記しています。この時代に、情緒を表す多くの音型が生まれ、教会音楽家たちは、それらを用いて、みことばの宣教のために

作曲しました。

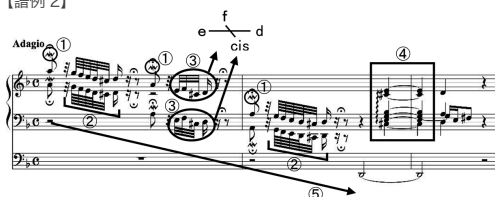
オルガン曲は、ことばを発しません。これらの音型を用いて福音を語っています。J.S. バッハのトッカータとフーガニ短調(BWV565)のトッカータの冒頭には、トリルから始まるモチーフが3回あります。このトリルは、震える音で、恐れおののくことを表しています(譜例2-①)。64分音符と32分音符の細かい音の組み合わせは、感情の高ぶりで、驚きを表しています(譜例2-②)。2つ目のモチーフの4つの音符は、互いに結ぶと十字架状になり、十字架を表しています(譜例2-③)。4つ目のモチーフは、痛々しく感じる減七の和音が用いられ、十字架の苦しみを表しています(譜例2-④)。そして、この冒頭の部分は、高い音から低い音へ下降しています。これは、イエス様が人となって、この世に来てくださったことを表しています(譜例2-⑤)。つまり、この部分では「神の御子イエス・キリストは、十字架により救いを成し遂げるため、この世に来てくださいました。これは驚くべきことです。」ということ、音楽言語で語っています。

このように、音楽言語を理解して、バロック時代のプロテスタント教会音楽を聴いたり、演奏したりする時、恵み豊かな神様をほめたたえ、喜びで満たされます。

【譜例1】



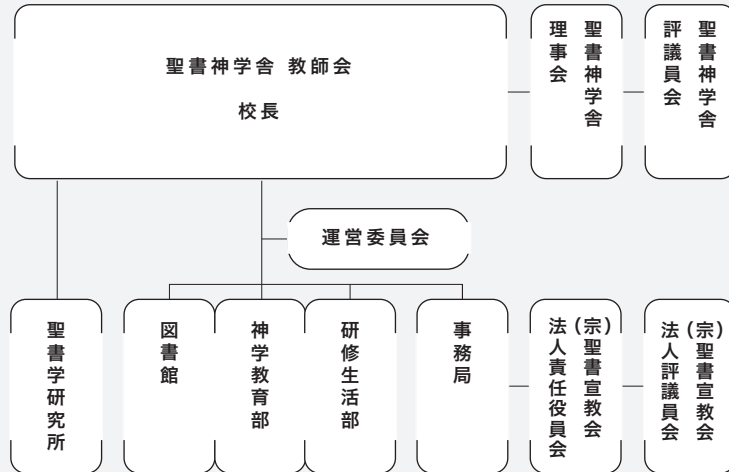
【譜例2】



*お詫びと訂正

『聖書宣教会通信』195号(2024年3月1日発行)の5ページに掲載した組織図中、「(宗)聖書宣教会法人評議員会」および「(宗)聖書宣教会法人責任役員会」の位置づけと関係の表示に誤りがありました。お詫びして以下の通り訂正いたします。

聖書神学会 組織図



◎ 2023 年度決算見込の感謝・2024 年度予算について

恵みに富む主の御名を賛美します。

諸教会、愛兄弟のお祈りと献げ物に支えられて、学舎の2023年度の経済的な必要が豊かに満たされたことを、主への感謝と恐れをもって、ここに報告いたします。

2022年度決算では20数年来で初めて実質収支が赤字となり、準備金を取崩す決算となって、皆様にご心配いただき、お祈りいただきました。

2023年度は、維持献金の2800万円の予算に対して3181万円をお献げいただき、大変大きな励ましをいただきました。その他の献金等もよく備えられました。支出の面では、活動費で-427千円、管理費で-1931千円、人件費で-953千円等、それぞれ予算内で執行して節減に努めました。大勢の皆様からの維持献金に支えられた結果、想定していた取崩しをせずに70万円ほどの実質黒字をもって決算します。皆様の禱援に心から感謝を申し上げます。

2024年度は、前年度を310万円上回る予算を立てる必要がありました。主の目に適う、また諸教会の付託によく応える働きを継続できるように、どうぞ引き続き、お祈りとお支えをよろしく願いたします。

今回は、従来の表形式とは異なるスタイルの報告になりました。財務管理の移行を経て、次回にはまた違った形式で報告させていただくことになると思います。

皆様の上に、恵みの主の顧みと祝福が豊かにありますよう、お祈りいたします。

(財務)